

愛宕山地域のまちづくり

市民の安心・安全を確保する
『医療・防災拠点』の整備に向けて



愛宕山地域のまちづくりは、新住宅市街地開発事業中止後の跡地の約4分の1にあたる区域(平地約15ヘクタール)で山口県と岩国市が推進するまちづくりです。

市では、愛宕山地域を『医療・防災拠点』として整備することとし、事業実施の準備を進めてまいりましたが、このたび準備がおおむね整いましたので、10月末に市内4カ所の会場で説明会を開催しました。

そのときの内容についてお知らせします。

☎愛宕山地域開発室 ☎295164



▲現在の岩国医療センター



▲愛宕供用会館での説明会



事業中止後・・・

新住宅市街地開発事業中止後の土地利用の検討を始めた当初は、岩国医療センターの移転新築と併せて、医療関連施設を視野に入れた民間施設あるいは公共施設の整備による『医療拠点づくり』を目指し、官民問わずさまざまな交渉を重ねてきました。しかしながら、昨今の社会経済情勢から期待した結果が得られませんでした。

新たなまちづくりへ

一方で、岩国医療センターの開院時期が平成24年度と3年後に迫っていることや、山口県住宅供給公社の借入金利息が毎日100万円程度も膨らみ続けていることなどから、早急かつ安定的に新たなまちづくりを進める必要ができました。

そういった状況から、岩国医療センターという高度医療機関が移転新築すること、まちづくり区域が中心市街地に

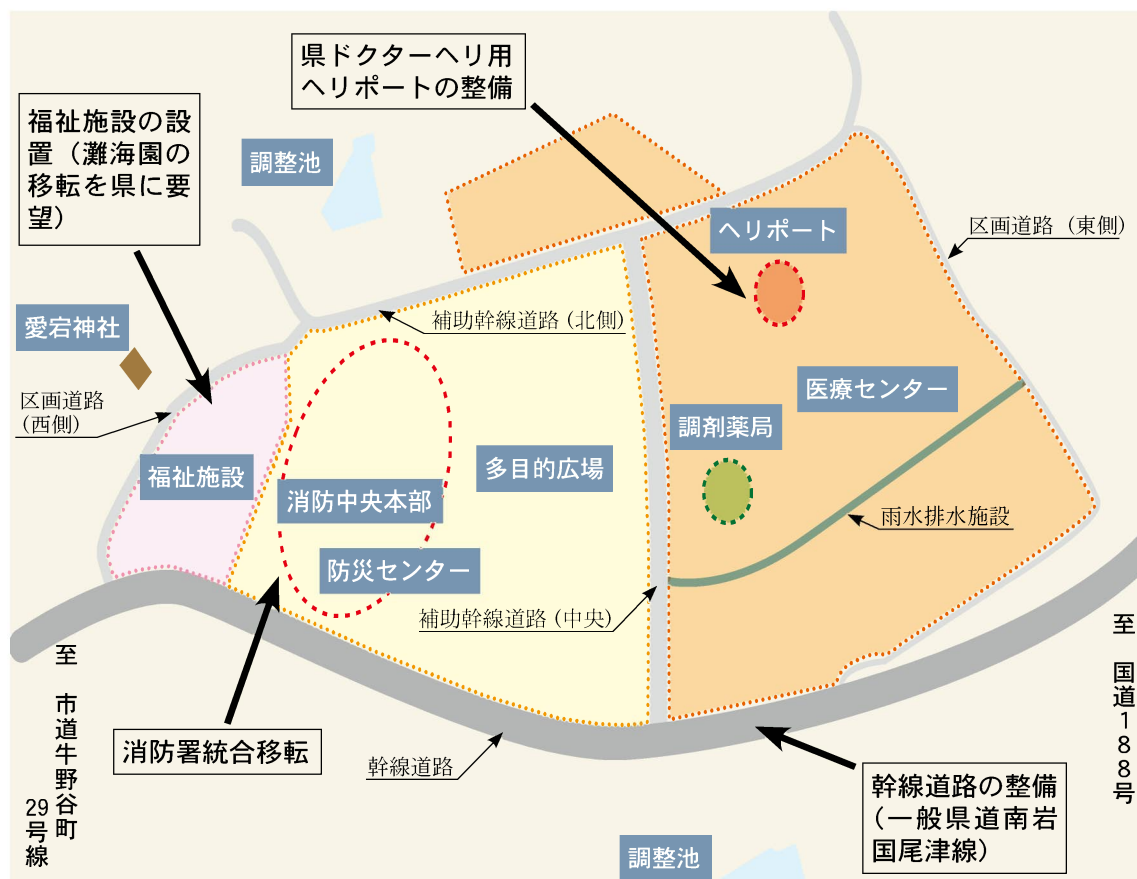
隣接していること、また、地盤が堅固な高台であらゆる災害に対応できる地勢であることなどの特性を踏まえ『医療・防災拠点づくり』を目指すこととしました。

医療・防災拠点づくり を目指して

「岩国医療センター」のほか「防災機能を備えた多目的広場」「消防署」「防災センター」「福祉施設」「調剤薬局」を設置することにより、非常時にはそれらが密接に連携して、市民の安心・安全をより強固なものにします。

このたび、このような土地利用計画について、県などの関係機関との調整が済み、9月市議会においては、愛宕山地域開発事業調査特別委員会の審査を経て、岩国医療センターの平成24年度開院のために早急に必要となるインフラ整備についての予算措置も承認されました。

愛宕山まちづくり区域の未来予想図



施 設	規 模	実施主体
岩国医療センター	敷地面積：約7ヘクタール 【病院本体】 構造：SRC(※1)造地上10階建て 延床面積：40,000㎡ 建築面積：5,800㎡ ※看護学校・宿舎などの規模は未定	岩国医療センター
多目的広場	敷地面積：約5.3ヘクタール	市
消防中央本部		市または消防組合
防災センター		
福祉施設	敷地面積：約1ヘクタール	県
ドクターヘリ用ヘリポート	検討中	民間
調剤薬局		
幹線道路	幅員：20m 延長：1,370m	県(県道南岩国尾津線)
補助幹線道路(北側)	幅員：9m 延長：540m	市
補助幹線道路(中央)	幅員：17m 延長：260m	
区画道路(東側)	幅員：4m 延長：490m	
区画道路(西側)	幅員：4m 延長：210m	
雨水排水施設	施設幅員：3.3m(うち溝幅員0.7m) 延長：280m	

※1 鉄骨鉄筋コンクリート

規模の目安としては、市役所の庁舎・駐車場などを含む全区画が1.8ヘクタールです。

岩国医療センターの 移転新築が中核に

岩国医療センターは、現在、病床数580床、診療科25科を有する総合病院です。また、救命救急センターを有する県東部地域で唯一の3次救急病院（※1）です。

移転新築後は、救命救急センターが大幅に拡張され、また、新たに緩和ケア（※2）病床が設けられる計画となっており、最新鋭の医療機器の導入と併せて高度医療の提供が期待されます。

なお、移転新築後も診療科は25科のままですが、病床数は530床になる計画です。これは、市内には比較的規模の大きい精神科病院が3院あ

【岩国医療センター移転への経緯】

1942年10月	岩国海軍病院として開院
1945年12月	国立岩国病院（厚生省）として発足
2001年3月	市議会において「国立岩国病院の移設」などの決議
2004年4月	独立行政法人化し、国立病院機構岩国医療センターへ名称変更
2007年11月	岩国医療センターの移転について、県・市・医療センター3者が合意
2009年2月	国立病院機構本部（東京）が、移転事業の一次承認
2009年3月	院長から福田市長へ要望書の提出（移転用地面積7ヘクタールの確保）
2009年6月	市議会でも、移転用地面積を7ヘクタールと表明
2009年8月	国立病院機構本部（東京）が、移転事業の二次承認
2009年10月	病院工事の設計業務などの入札公告
2009年12月	入札（予定）

ることや、岩国医療センターの基本的な性格が急性期（※3）医療であることなどから、精神科病床を廃止するというものです。

平成24年度の開院に向けて病院本体工事のための設計業務の入札公告が10月に行われ、新病院のおおむねの規模が計画されました。

※1 生命の危機にひんしている最重症者を治療する医療機関

※2 生命を脅かす疾患に直面する患者とその家族の人生と生活の質の改善を目的として提供されるケア

※3 初期の対応により治療成果のすべてが決まるような、症状が急激な初期の短い期間

防災機能を備えた 多目的広場

多目的広場は、市の防災中枢機能として岩国医療センターや消防署とともに災害対策活動の拠点として機能するよう整備します。

災害時には、周辺他県などからの応援ヘリコプターの臨時ヘリポートとして、また、全国各地からの救援物資の集配拠点となり、平常時は、世代を問わずに集うことができ、夢広場として愛される施設を目指します。多くの市民の意見を取り入れるよう、早ければ来年度にもワークショップなどを開催する予定です。

消防署の統合 そして 防災センターの新設

現在、中央消防署をはじめ、その庁舎は大変老朽化が進んでいます。また、旧市の市街地には3つの消防庁舎（中央消防署、西消防署、南岩国分遣所）が分散しています。

そこで、3庁舎の統合新築をして、人的・物的な効率化

を図り、防災センター（体験研修施設）を併設して防災意識の向上を図ること、消防・防災機能の充実が図られることが期待されます。

特別養護老人ホーム 「灘海園」移転を要望

福祉施設の設置は県が対応することになっていますが、市としては具体的に特別養護老人ホーム「灘海園」の移転を県に対して要望しました。

灘海園は、昭和47年の建築ということで、施設の老朽化や狭あい化などのため、県社会福祉事業団でも建て替えの検討がされています。

加えて、医療センターに隣接し、長年、同センターを協力医療機関として密接な関係にあった経緯を踏まえ、医療センターと併

せて移転新築すること、

「医療・防災拠点」としての充実が図られるものと期待されます。



救急に備え ドクター ヘリ用ヘリポート設置

県では、平成15年9月から消防防災ヘリコプター「きらら」でドクターヘリ的な運用をしています。しかしながら、あくまで消防防災が主目的であるため、救急体制をさらに強固にするため、ドクターヘリを平成23年1月から運航する計画としています。ドクターヘリが離発着するヘリポートを岩国医療センター移転用地に隣接した場所に県が設置します。

なお、山口大学医学部附属病院を基地病院とするため、岩国医療センターにヘリコプターは常駐しません。

調剤薬局用地の分譲

調剤薬局を「医療・防災拠点」に立地することにより、災害時には医薬品が大量に、また、迅速に提供されることが期待されますので、民間売却という形で、調剤薬局用地の分譲を計画しています。